



岡山大学歯学部案内

OKAYAMA UNIVERSITY DENTAL SCHOOL



2008



目次

学部長挨拶	3
沿革	4
教育理念	5
カリキュラム	6
ODAPUS	8
サークル紹介	9
キャンパスライフ	10
卒業後の進路	
研修医センター	12
大学院	13
附属病院	14
研究室紹介	15
岡山紹介	22
MAP	23

岡山大学歯学部案 2008

新しい息吹 創世への想い



歯学部長

滝川 正 春

内

岡山大学歯学部は、昭和54年に創設された比較的新しい歯学部ですが、全国に29校ある大学歯学部・歯科大学中で6番目に大学院化を果たし、急成長している歯学部です。新しいところには新しい息吹があり、自由な気風、自由な発想が教育・研究に生かされてきた成果といえます。

本学部の教育理念は「良き歯科医療人を育成し、歯科医学を研究、発展させること」にあり、「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っています。そのために、一般的な歯学教育はもとより、チュートリアルシステム（少人数制の能動的自己学習プログラム）、ODAPUSプログラム（短期留学制度）、研究室配属による研究活動など、独自のプログラムを提供し、幅広い教育を行っています。

大学院は、平成13年度に医科との統合により部局化を果たし、より高度な教育研究を行う大学院大学の体制を整えました。さらに、平成17年度からは薬学系の参入により、医歯薬学総合研究科となりました。その特色を生かし、医学・薬学系との連携のもと、最先端の学際的・国際的研究が盛んに行われています。また、その成果は学部教育や先端歯科医療のための重要な基盤となっています。国際共同研究や国際交流も活発で、科学研究費の獲得額も日本で有数との評価を得ています。

附属病院は平成15年10月から医学部・歯学部附属病院となり、大学院と同様に医科との緊密な連携の下で新しい歩みを始めました。顎関節症・口腔顔面痛み外来、口腔インプラント外来、特殊義歯外来など、新しい診療科も作り、外来患者数は日本で4・5番目に多い病院になっています。

卒業生は、臨床医としてはもちろん、研究者・教育者として、また、医療行政官等として全国、さらには世界各地に散らばり活躍しています。生命科学・健康科学としての新しい歯科医学・医療を学びたい人にとって、岡山大学歯学部は絶好の学舎です。

君たちの熱意が明日の歯科医

食べる喜び、美しい笑顔、調和のとれた口腔の機能を追求する
歯科医師や研究者を育成します。

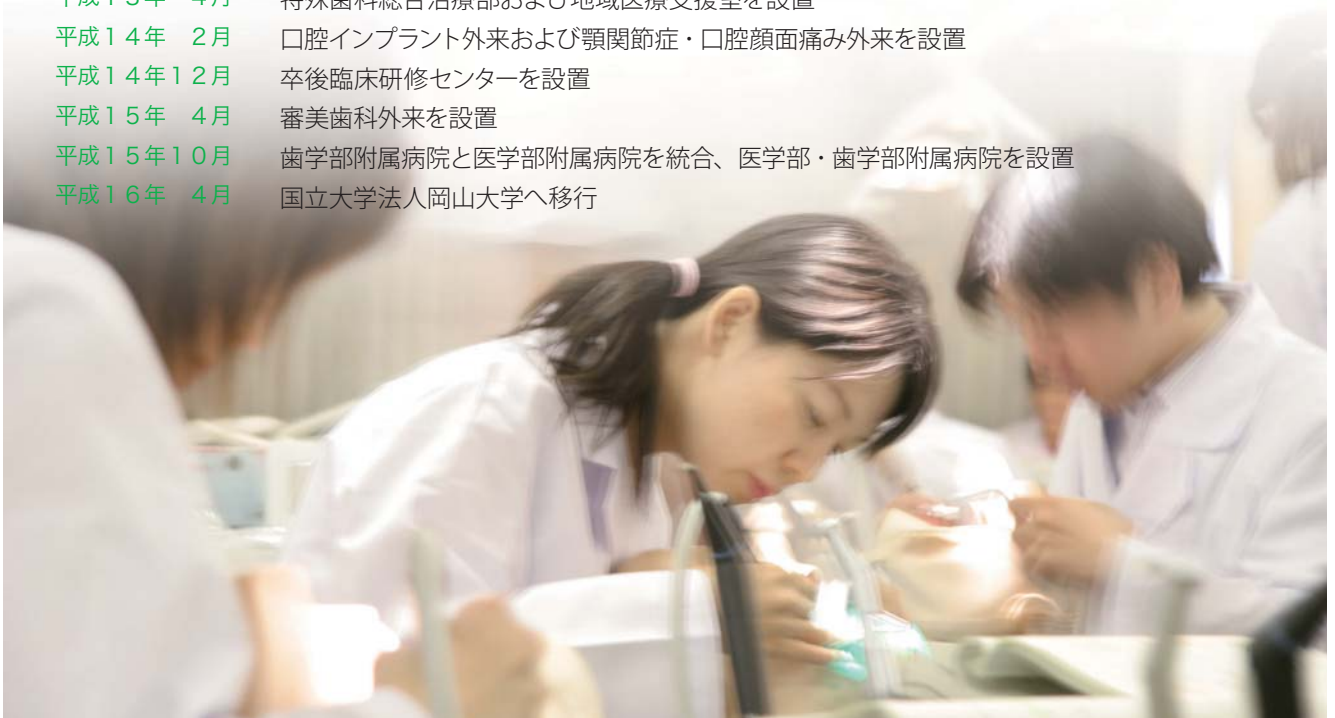
沿革

学部

昭和52年	4月	歯学部創設準備室設置
昭和54年	10月	岡山大学歯学部設置
昭和55年	4月	歯学部第一期生受入
昭和56年	12月	歯学部校舎および附属病院棟新営工事竣工
昭和57年	4月	歯学部専門課程の授業開始
昭和59年	4月	18講座設置完了
昭和63年	4月	大学院歯学研究科（博士課程）設置
平成13年	4月	大学院医歯学総合研究科を設置（平成15年4月 修士課程設置）
平成14年	4月	歯学部学士入学第1期生受入
平成16年	4月	国立大学法人岡山大学へ移行
平成17年	4月	大学院医歯薬学総合研究科を設置

病院

昭和55年	4月	歯学部附属病院創設準備室設置
昭和57年	4月	附属病院棟新営工事竣工、歯学部附属病院設置、診療開始
平成5年	4月	11診療科となる
平成13年	4月	特殊歯科総合治療部および地域医療支援室を設置
平成14年	2月	口腔インプラント外来および顎関節症・口腔顔面痛み外来を設置
平成14年	12月	卒後臨床研修センターを設置
平成15年	4月	審美歯科外来を設置
平成15年	10月	歯学部附属病院と医学部附属病院を統合、医学部・歯学部附属病院を設置
平成16年	4月	国立大学法人岡山大学へ移行



療をリードする



教育理念

口は、息をしたり、物を食べたり、会話をするなど人が生活していく上で必要なだけでなく、日常生活において豊かな表情を演出する大切な器官です。また、最近では、物を咬むことが記憶や学習の効果を高めるなど口の機能が脳の働きに関わることが脚光をあびています。このように大切な口の健康を管理するため、病気の治療や予防に関する研究や、口の科学研究をもとに得られた成果を全身の健康増進に発展していくのが歯科医学です。

歯学部は良き歯科医療人を育成し、歯科医学を研究、発展させることを目的とし、「国民への高度な歯科医療の提供」と共に「先端的な歯科医療の研究開発」を重視した人材育成を行っています。さらに、社会のニーズの多様化と国際化が急速に進む現在、総合的に適切な判断を行える学際的国際的な人材の育成につとめています。

- 1) 総合大学の特性を生かし、幅広い教養および総合的判断能力を身に付けた豊かな人間性の育成
- 2) 社会の要請ならびに科学の進歩に主体的に、独創的に対応し、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師の育成
- 3) 歯科医学を基盤に多彩な場で活躍ができる知識と技能、さらに科学者としての学際性と国際性の育成
- 4) 先端的な歯科医療の研究開発を担うための問題発見、問題解決の能力を身に付け、自ら生涯を通じて学ぶ精神の育成

目 標

岡山大学における教育の目的は、専門的能力の育成と人格形成です。これは卒業後に社会に出て活躍するための基盤となるものです。すなわち多様化、複雑化、情報化時代において、社会に貢献できる能力を身に付けなければなりません。このためには高度な専門的知識だけでなく、論理的思考力、独創的思考力、そして高い倫理観と教養を身に付ける必要があります。

歯学部では、高度な医療福祉の担い手となりうる歯科医師、先端的な歯科医療の研究開発を担う研究者など、歯科医学を基盤に多彩な場で活躍できる人材を育成しています。教育課程は6年一貫教育となっており、歯科医療に必要な臨床科目、その礎となる基礎科目など一般的な歯学教育を中心に、歯科医師に必要な知識と技術の習得を目指します。

理想の 入学者像

歯科医学は総合的な学問で、岡山大学歯学部では、自然生命科学から工学的な分野、さらには人文・社会科学的な分野まで幅広い領域の教育・研究が行われています。必ずしも理科系の学生のみではなく、さまざまな学生が活躍できる学部です。

以上のような観点から、文系、理系をとわず、次のような学生を求めています。

- ・歯学教育を受けるに十分な基礎学力がある人
- ・他人を思いやる優しさの高い倫理観を持っている人
- ・何事にも意欲的に取り組むことができる人
- ・生命、健康科学に強い好奇心と探究心を持っている人
- ・歯科医師として国民の健康、福祉及び地域と国際医療に貢献したいという明瞭な目的意識を持っている人

カリキュラム

世界に通じる全人的医療人を育成します。



1 年次

2 年次



3 年次

教養教育科目
早期見学実習
チュートリアル

情報処理入門

コンピューターを情報収集の道具として容易に利用できるように、その機能や基本的な概念を学びます。



チュートリアル

テーマに沿った話題について、グループごとに討論、発表することで、自己学習法を習得します。



専門教育科目
基礎実習

基礎実習

模型を用いて生体材料、器械、器具の所要性質を習得します。



歯学国際交流演習
(ODAPUS) P8 へ
研究室配属

研究室配属

各研究分野において学生が自ら実験研究に参画し、科学的視点を身に付けます。



4 年次



5 年次

6 年次



国家試験

臨床基礎実習

臨床実習

臨床基礎実習

マネキン患者と想定して臨床手技のプロセスを習得します。



国家試験

平成 17 年 86.8%
平成 18 年 96.8%
平成 19 年 90.4%

高い合格率

診療参加型臨床実習

実際の臨床の場において、指導教員の指導のもとで学習します。



ODAPUS

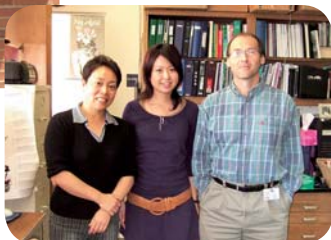
[オダバス]

ODAPUS プログラム (Okayama Dental stay Abroad Program for Undergraduate Students の略) とは、3 年次生が、3 か月程度、海外の大学に聴講生として参加できる短期留学制度です。岡山大学に特有の制度で、派遣大学の世話教授等から受講証明書を取得することで単位として認定される選択科目です。現在、ワシントン大学 (アメリカ) やロンドン大学 (イギリス) など世界各国にあるいくつかの大学への短期留学が可能です。



提携大学 (平成 19 年現在)

ロンドン大学 (イギリス)、中国医科大学 (中国)、カリフォルニア大学 (アメリカ)、ワシントン大学歯学部 (アメリカ)、サスカチュワン大学 (カナダ)、インドネシア大学 (インドネシア)、北京大学 (中国)、国立モンゴル医科大学歯学部 (モンゴル)、マンガロール大学 (インド)



永田 征寛 4 年次生 / 私立滝高等学校 (愛知県) 平成 16 年卒業

ODAPUS プログラムに参加して約 3 か月間 NY に留学しました。NY での 3 か月間は何かものが新鮮で、貴重な体験をする毎日でした。今回の留学を通して海外の歯科事情を知ることができたと同時に世界各国に友達ができました。歯医者になるうえで役に立つことは間違いないです。ODAPUS プログラムはどこの大学にもあるプログラムではありません。今後多くの後輩にこの素晴らしいプログラムに参加して欲しいです。



サークル紹介

準硬式野球部

私たち岡山大学歯学部準硬式野球部は、現在選手13名マネージャー8名の計21名の部員で現在活動しています。8月に開催されるオールデンタルに向けて週3回部員みなでがんばっています。普段は和気あいあいしていますが、練習ともなると先輩・後輩も関係なく、真剣そのもので野球に打ち込みます。そのほか休日には、お花見、海でのバーベキュー、冬にはスキーやボードとイベント盛りだくさんで楽しくやっています。

野球に興味のある人は、野球初心者の人、女性、誰でもぜひ遊びに来ててください。



弓道部

岡山大学歯学部弓道部です。弓道は経験がないと難しいと思われがちですが実際私達の部に経験者はあまりいません。私たちは夏にある全日本歯科学生総合体育大会に一番力を入れています。それはとても楽しく、他の学校の人たちとも交流できます。

楽しく弓を引いていたら良い成績がついてきたというような部活を目指しており、実際、個人戦、団体戦ともに上位入賞し、良い成績を残しています。道場に来て頂ければいつでも歓迎しますので是非遊びに来てください！



バスケットボール部

私達歯学部バスケットボール部は、現在男子約10名、女子約20名で活動しています。練習は、水・木・土の午後7時半から2時間半です。また、昨年から国体も行われた岡山県総合グラウンドで毎週月曜日に2時間の練習ができるようになりました。これによって、毎年夏に行われる『オールデンタル』により力を注げるようになり、昨年度、男子は4位と見事な結果を残しました☆

他にも、お花見やバーベキュー、スノボなど楽しいイベントも多く、男女共学年を越えてとても仲の良い部活です♪是非遊びに来てください♡



バドミントン部

私達歯学部バドミントン部は、毎年夏に開催されるデンタルという全国の歯学部が参加する大会に向け、部員みなで頑張っています。大学から始めた人が多いですが、先輩が優しく指導して下さるので、みんなメキメキ上達しています。また、医学部や他大学との交流戦もあり、幅広く友達を増やすことができます。

その他、練習後には食事に行ったり、休日にはドライブやバーベキュー、夏には海で花火をしたり、冬にはスキーやボードに行ったりして、高校とは違った多くのことを経験することができます。是非一緒に楽しい思い出を作りましょう！



卓球部

卓球部は普段の練習は医学部と薬学部の三つの学部合同で行っています。

そのため他学部の生徒との交流もあり、大会等を通じて他大学との交流もあるのでとても貴重な経験が得られること間違いなしです！



剣道部

私たち岡山大学歯学部剣道部は、週に火・木・土曜日に医学部の学生とともに稽古をしています。部員も経験者だけでなく、大学から剣道をはじめた部員もたくさんいます。また、一年間を通して、全日本歯科学生剣道大会・中四国医科学学生剣道大会などの試合や学園祭などの様々なイベントがあります。道場に来て頂ければいつでも大歓迎です。ぜひ、見学に来てください。



- ◆硬式庭球部
- ◆サッカー部
- ◆ボウリング部
- ◆能楽同好会
- ◆ピアノサークル



Campus life

学ぶ・憩う・語る・励む・分かり合う・思いやる
磨かれるのは、知識と技術以上に、人としての力であって欲しい。

国際交流 ODAPUS や日韓交流など学生間の盛んな国際交流を行なっています。

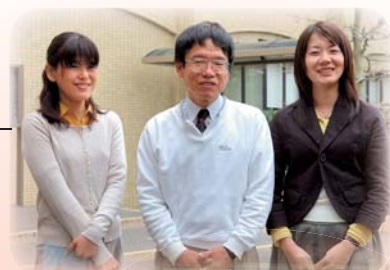




課 外 活 動

快適な学生生活を
力強くバックアップします。

教務学生係



心と体の健康管理を
サポートします。

保健環境センター



学生たちを見守る暖かい手



卒業後の進路

研修医
センター

充実した歯科医師卒後臨床研修の提供

卒後研修センター

歯科研修部門



平成 18 年より歯科医師法が改正され、新たに歯科医師免許を取得した歯科医師は 1 年以上の臨床研修を受けることが義務化されました。これに対応して、岡山大学医学部・歯学部附属病院では、1 年間の充実した歯科医師臨床研修を行うことが可能なプログラムを提供しています。

本院での研修の目標は、医療人である歯科医師にとって必要な態度、知識および技能を習得し、生涯研修の第一歩とすることです。この目標を達成できるように、机やロッカー、パソコンを設置した研修歯科医室など充実した研修ができる環境も提供するとともに、歯科臨床のみならず、セミナー、カンファレンスさらには救急救命講習等を組み込んだ魅力的なカリキュラムとしています。また、研修歯科医が日々の診療を振り返ることにより多くの気づきが得られ、歯科医師としてのプロフェッショナルリズムを学ぶ手助けになるように、パソコンを使った独自の研修教育システムも活用しています。

このような本院での卒後臨床研修は、社会から期待される歯科医師となるための礎として研修歯科医各自の将来に向けて有効に役立ててもらえるものと確信しています。



卒後研修センター歯科研修部門長

烏井 康弘 教授

大阪府立高津高等学校 昭和 50 年卒業



OB・OGは今...

石井 圭 研修歯科医
静岡県立静岡高等学校 平成 12 年卒業

研修医 1 年目を終えて思うこと

「歯科医師として、患者を診る」——これが、どれほど深い意味を持つことなのかを理解できたことが、この 1 年間で私にとって最も大きな収穫だったと思います。ただ、口の中だけを診てう蝕や欠損を処置するのが歯科治療ではなく、患者さんの心と体の数だけ答えがあるものが歯科治療です。そこには「患者と歯科医師」という関係ではなく、「人間と人間」という関係が必要であることに気づけました。

これから続く長い歯科医師人生の 1 年目を、ここで過ごすことが出来て本当に良かったと思います。多くの指導医の先生の下で、それぞれのスタイルを学び、その中から自分にあったものを吸収できる環境がありました。自分がこれから目指していきたい歯科医師像の土台を、はっきりと作ることができました。



卒業後の進路

大学院

医・歯・薬3学部が連携して次世代のヘルスサイエンスを開拓する

大学院医歯薬学総合研究科

平成 17 年度、歯学部大学院は医歯薬学総合研究科として生まれ変わりました。5つの専攻分野に再編成され、新たな生命を得た大学院では、今までの歯科医学の枠を超えた斬新な視点からの研究が日夜続けられています。そして今、海外からの留学生、あらゆる学部からの頭脳が結集し、ヘルスサイエンスの明日を導く旗手として世界中の注目を浴びています。

大学院医歯薬学総合研究科

医学部

歯学部

薬学部

生体制御科学専攻

機能制御学講座 (16 分野)

脳神経制御学講座 (11 分野)

病態制御科学専攻

病態機構学講座 (9 分野)

腫瘍制御学講座 (11 分野)

機能再生・再建科学専攻

生体機能再生・再建学講座 (8 分野)

口腔・顎・顔面機能再生制御学講座 (6 分野)

社会環境生命科学専攻

法医生命倫理学講座 (2 分野)

国際環境科学講座 (8 分野)

長寿社会医学講座 (5 分野)

創薬生命科学専攻

創薬科学講座 (6 分野)

先端薬物療法開発学講座 (7 分野)

①実験・分析



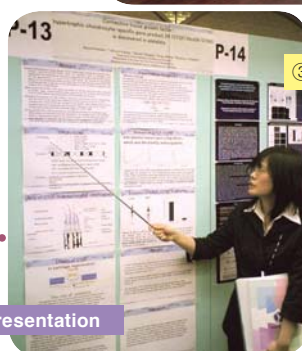
Experiment

②議論



Discussion

③成果の発表



Presentation

新たな
医療の開発

学位の取得



OB・OGは今...

川木 晴美 平成 16 年卒業 大学院生

2005 年度 ピエールフォーシャルアカデミー奨学金 * 受賞

大学院では臨床に直結するものから、生命活動の基礎に関係するものまで様々な研究が行われています。他講座との共同研究も可能で歯科医学研究の色々な側面を直に見ることができるので、自分でも本当に面白く目的意識を持って研究に取り組んでいけます。

* 米国に本部を持つ歯科医学の国際組織で、毎年世界の歯科大学から数名を選ばし奨学金を授与している。



卒業後の進路

附属病院

最先端の医療を提供し、地域及び国際福祉に貢献する

岡山大学医学部・歯学部 附属病院（歯科）

現在岡山大学医学部・歯学附属病院（歯科）では、「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てる」という理念を掲げて日々の診療を行っています。現在は、下記のような診療科で構成されており、テレビやマスコミで報道されているように、新しい治療や先端医療に従事することができます。将来の日本を牽引する優秀な皆さんがこの病院の一員となって頑張ってくれることを楽しみにしています。

診療科案内

総合診断室（予診室）

総合歯科

総合歯科

口腔治療・咬合再建科

むし歯科

歯周科

補綴（クラウン・ブリッジ）科

補綴（咬合・義歯）科

口腔病態外科

口腔外科（再建系）

口腔外科（病態系）

歯科放射線・口腔診断科

歯科麻酔科

総合口腔保健科

矯正歯科

予防歯科

小児歯科

特殊歯科総合治療部

第一総合診療室

{心身障害者（児）歯科治療室、摂食・嚥下リハビリテーション室}

第二総合診療室（感染症患者歯科治療室）

第三総合診療室（全身疾患有病者歯科治療室）

専門外来

口腔インプラント外来

顎関節症・口腔顔面痛み外来

審美歯科外来

特殊義歯外来

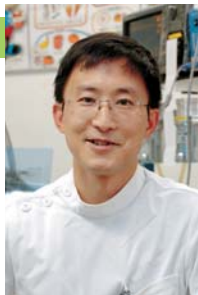
スポーツ歯科外来

顎顔面補綴外来

口かわき・味覚外来

歯科金属アレルギー外来

口臭外来



江草 正彦

特殊歯科総合治療部 准教授

岡山県立岡山大安寺高等学校 昭和56年卒業

特殊歯科総合治療部の紹介

第一総合診療室は障害を有する患者様の歯科診療や、摂食・嚥下障害のリハビリを行う所です。

年齢は乳児から高齢者まで様々で、口腔の問題をトータルに支援しています。

岡山県の高次医療機関では唯一で、近県からも多くの患者様が来院されています。

また、障害を有する方や全身管理の必要な患者様に入院下での集中歯科治療も行っており、それぞれのニーズにあった対応を心がけています。





研究室紹介

口腔形態学



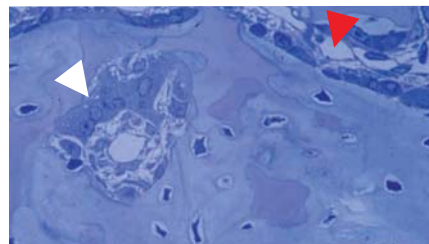
山本 敏男 教授

新潟県立新発田高等学校
昭和 44 年卒業

骨や歯をテーマにそれらの形成機序・吸収機序を研究

当研究分野は平成13年の改組の結果、口腔形態学分野という名称に変更しました。それ以前は口腔解剖学第一講座でした。歯学部での教育については、旧名称が示すように解剖学の講義・実習を担当しています。具体的には骨や筋など人体の運動に関連する器官ならびに内臓(消化器、呼吸器など)の肉眼解剖学、人体を構成する細胞組織、器官の構造や機能を顕微鏡レベルで学ぶ顕微解剖学(ミクロの解剖学)ならびに歯と歯周についてそれらの発生過程とミクロの構造についての講義・実習を担当しています。研究については、大きく分けて次のようなテーマで行っています。1) 骨の形成、吸収機構を形態学、細胞生物学的手法を用いて調べる、2) 骨に加えた機械的力が骨形成や骨の細胞に

与える影響を細胞生物学的に調べる、3) 骨の再生に向けて、骨形成を促す遺伝子を細胞・組織に導入する方法を用いて調べる、4) 歯のエナメル質を形成する際の細胞間の接着装置の役割、分子構成を調べる。これらの研究を行うにあたっては、光顕、電顕を始め、免疫組織化学や分子生物学の方法を用いています。



骨の顕微鏡像：骨を造る細胞(赤矢印)、吸収する細胞(白矢印)がみえる

口腔機能解剖学



杉本 朋貞 教授

大阪府立住吉高等学校
昭和 45 年卒業

解剖学の目的は人体の機能を理解することだ

口腔はものをかみ砕いたり、飲み込んだり、呼吸をしたり、声を出したりするためにいろいろな骨や筋肉などが組み合わさっています。また口腔には、一本一本の歯にいたるまで血管や神経がくまなくはりめぐらされていて、酸素や栄養を運び、味覚や運動をコントロールしています。歯科医師や歯学の研究者を志す人にとって、口腔をかたちづくる歯、骨格、筋肉、血管、神経の形や働きに関する知識はたいへん重要なものです。口腔機能解剖学分野は口腔や、それを支える全身の構造を学ぶための授業を担当しています。講義は2年生の秋からはじまり、3年生の冬には実際に人体の構造を観察する実習があります。

研究面では、口腔の感覚がどのようにして脳に伝

えられるかを調べるための実験をしています。口腔や顔はさまざまな痛みのおこるところです。三叉神経痛など原因がよくわからない痛みや、歯のかみ合わせが悪いためにおこる顎関節症などは歯科医師が日常的に出会う症状です。口腔の感覚を伝える神経や脳のはたらきの不調がどのようにして起こるのかを研究しています。



口腔生理学

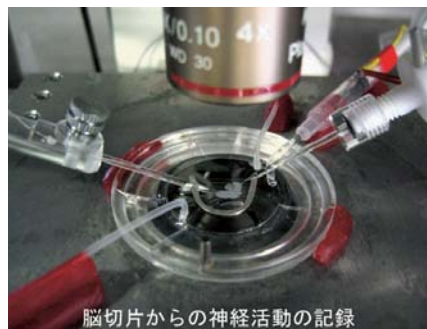


松尾 龍二 教授

ラ・サール高等学校
昭和46年卒業脳のメカニズムを探究し、
巧妙な口の働きを解き明かす

当分野は、歯学部での生理学の講義と実習を担当しています。生理学は、生体の機能を定量的に解析して、そのメカニズムを探究する学問です。個々の細胞から器官、個体、ひいては社会的な行動パターンも学問の対象にしています。とくに歯学部の講義では、全身の機能を理解した上で、様々な口の働きとそのメカニズムを理解できるように力を注いでいます。研究では、口や顔面の生理機能を解明するために、とくに脳の研究に着目し、電気生理学の実験、組織化学の実験、行動学的実験から神経系の役割を明らかにする研究を行っています。具体的には、①口感覚（味覚や痛み）の研究、②唾液分泌や血流を中心とした自律機能の研究、③食行動、飲水行動、嚥下、嘔吐の研究の中

心に行っています。これらの研究は、歯科の臨床に携わる人達とも共同で進めています。単に口の機能を探究するだけでなく、健康を保持し、生活の質（QOL: Quality of Life）を増進させることに役立っています。



脳切片からの神経活動の記録

口腔生化・分子歯科学



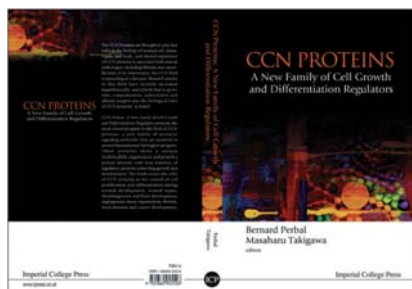
滝川 正春 教授

大阪府立天王寺高等学校
昭和42年卒業

「骨はどのようにしてつくられるか？」をテーマに世界に羽ばたく

生化学とは生命の基礎を化学的に取扱う科学で、細胞の化学的機構を分子のレベルで解明しようとする学問ですが、当研究室では、全身および口腔の生化学の講義、演習および実習を担当しています。研究面では、硬組織（骨・軟骨・歯）の形成・維持・吸収（骨粗鬆症など）機構に関する生化学的・分子細胞生物学的研究、硬組織および血管の再生に関する分子細胞生物学的研究、硬組織および口腔の発癌機構に関する分子細胞生物学的研究、内軟骨性骨形成促進因子であり組織再生因子でもあるCCNタンパク質の生理的意義や病気との関わりに関する研究を行っています。なかでも軟骨研究とCCNタンパク質の研究は、再生医療と密接に関連することもあるため、特に力を入れており、世界の十

数カ国の大学・研究所と協同研究を行っています。教員、院生らがそれらの協同研究先に留学し、多くの成果を挙げています。また、研究室配属を機会に学部学生のときに英語論文を筆頭で書いた学生が出ています。最先端の研究を通じて世界に羽ばたきたい人にとって当研究室は絶好の学舎です。



世界で最初のCCNタンパク質の本。
パリ大学B.Perbal教授と共に2005年に出版した。

口腔病理病態学



永井 教之 教授

新潟県立長岡高等学校
昭和36年卒業

ミクロの視点で病気を斬る！

病理学とは病気の本態（原因・成り立ち・経過・転帰）について探求する学問です。口腔病理学の講義では身体に生じる様々な病的な変化や疾患について、口腔領域だけではなく全身疾患に関しても学んでいきます。実習では顕微鏡を用い実際の病変の標本を観察することにより、細胞・組織の変化を視覚的にとらえ理解してもらう事を目標としています。研究面においては、口腔腫瘍や歯の再生についての研究を行っています。口腔腫瘍の研究では、腫瘍を制御する事を目標として、遺伝子レベルでの病態メカニズムの解明に取り組んでいます。歯の再生研究では、歯科インプラント材の新規開発とともに、新たな歯を再生させ健康に寄与することを

目標としています。本分野はアジアのみならずヨーロッパや南米などから派遣された多数の外国人留学生および研究者（8カ国12名）が活躍している国際色豊かな教室です。



口腔微生物学

歯と口と全身の健康も脅かす口腔病原微生物に挑み続けて四半世紀

歯科領域の二大疾患であるう蝕（むし歯）と歯周病は、ともに口腔微生物が原因で起こりますが、これらは全身の健康にも影響することが分かってきました。当研究室は、新千円札の肖像に描かれている有名な微生物学者、野口英世も追求めた肉眼では見ることが出来ない1mmの千分の1の大きさの小さな生命体—微生物の中でう蝕や歯周病を引き起こす口腔内の悪玉、病原微生物について研究しています。唾液1mlには十数億個、爪楊枝で拭った数mgの歯垢の中には数億個、6百種類以上の微生物が潜んでいます。その中でう蝕の原因菌であるミュータンスレンサ球菌がどうやって歯にへばり付いて硬い歯の表面を溶かすのか、また、酸素を嫌う歯周病細菌がどのように歯と歯ぐきの間に

に巣くって増殖して、歯ぐきに炎症を引き起こし、歯を支えている骨をも溶かしてしまうのかを明らかにして、う蝕や歯周病の診断、治療さらには予防につなげようとしています。また培養が困難な未知の口腔内の微生物についても遺伝子レベルで追い詰め、口腔疾患との関わりについて研究を進めています。



福井 一博 教授

山口県立下松高等学校
昭和36年卒業

歯科薬理学

口腔機能の神経性調節に係わる遺伝子の働きをテーマに創薬に挑む

当分野は、岡山大学歯学部において「歯科薬理学」の講義・実習を担当しています。薬理学とは、生体に対するくすり（薬物）の作用とその臨床応用についての学問であると同時に、薬物をツールとして生体機能の未知のメカニズムを探究し、その成果をもとに新しい薬物の開発（創薬）を行う学問です。将来、歯科医師として活躍するために必要な薬物療法の基礎知識だけでなく、疾病に対しどのような薬物を用いるかを自らの判断で選べることを基本として教育に当たっています。また、将来研究者を目指す人たちのために、最新の薬物の知識と、それを開発するために必要な方法論についても講義しています。当研究室では、分子神経薬理学の新しい方法論を背景に、口腔機能を調節する神経系

に特異的に発現する種々の遺伝子を同定し、その働きについて研究を行っています。なかでも、神経伝達の調節を行う神経伝達物質トランスポーターの研究を通じ、その成果が慢性疼痛など口腔領域に関係の深い疾患に対する新しい薬物療法の基盤を与え、それが将来の創薬に繋がることを目指しています。



北山 滋雄 教授

香川県立丸亀高等学校
昭和46年卒業

生体材料学

歯科医療の未来をテーマに、先端生体材料開発を目指す

生体材料学分野では、歯科医療に用いられる材料や機器の講義・実習を担当しています。歯は骨と異なり、虫歯やケガで生じた欠損は自然には治りません。無くなった歯やその周囲組織を補うための人工材料がどのように機能するかによって歯科治療の成否は大きく左右されます。当分野では、生体に安全で、かつ、口腔内で優れた機能を発揮する歯科材料の開発を目指し、歯の接着材料、人工歯根、骨補填材や環境ホルモンを含有しない入れ歯材料の開発を行っています。また、この他に歯科用機器としてレーザーに関する研究も行っています。今やレーザーは歯科医療になくてはならないものであり、外科的処置、虫歯の除去から痛みの緩和まで幅広く用いられています。レーザーをより効果的に

かつ安全に使うために、新しい歯科用レーザーの開発やレーザー治療に最適な歯科材料の開発に取り組んでいます。また、これらの研究には、生体と材料との相互作用をナノレベルで解析する分析技術が欠かせません。当分野ではナノレベルの最先端分析技術を駆使して、生体材料の開発研究を進めています。



鈴木 一臣 教授

東海大学附属第一高等学校
昭和39年卒業

歯科保存修復学



吉山 昌宏 教授

大阪府立茨木高等学校
昭和51年卒業

接着、審美、再生歯学の 三位一体による歯科治療を目指す

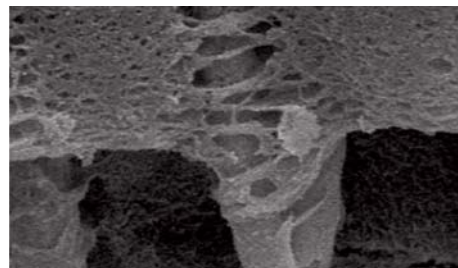
当教室は、岡山大学歯学部で、歯科保存修復学の教育、臨床、研究を担当している歯科保存修復学分野です。

教育は、歯学部学生に歯科保存修復学の講義と、最新のシミュレーションシステムを使用した実習を行い、卒業直前の学生および卒業後の新人ドクターに対しては、臨床実習（実際の患者様を診る実習）を担当しています。

臨床では、これらの研究成果を取り入れた審美性修復材料によるう蝕治療や歯周治療などを大学病院で行っており、本教室の名前どおり歯の保存に主眼を置いた治療を行っています。

研究としては、歯の主要な組織である象牙質を再生させる治療法を開発するために、生物学的および

材料学的アプローチに取り組んでいます。また、歯に接着する審美性修復材料を用いた新しいう蝕治療法の開発や、奥歯にも使用できる審美性歯科材料による修復法の研究にも力を入れています。さらに、歯の主要な病気であるう蝕象牙質の細菌学的、分子生物学的な研究にも鋭意取り組んでいます。



象牙質と材料との接着界面の電子顕微鏡像

歯周病態学



高柴 正悟 教授

広島県立
福山誠之館高等学校
昭和55年卒業

歯の延命だけですか・・・？ 全身の健康へ貢献する歯周病態学

歯周病態学は、全身のなかでも常在細菌の多い口の中で細菌感染とそれによって引き起こされる慢性炎症が元で起こる歯の周り（歯周）の病気を対象とした分野です。歯と歯肉の境目や歯の中と骨との境目から起こる病気（歯周病と歯内疾患）は、全身へ種々の影響を与えることが分かってきました。この分野では、細菌学、免疫学、細胞生物学、そして分子生物学などの基礎に則って、病気の本態と治療の機序を研究して、学部と大学院の教育と附属病院の歯周科における臨床に役立てています。最近では、高齢者、臓器移植患者、そして癌患者の増加に伴い、口の中の細菌感染と炎症が全身へ及ぼす影響を無視できません。こ

のような患者の医科的な治療に際して、口の中の感染と炎症の制御も行っています。3年次の教室配属や5・6年次の臨床実習を通して、研究の一端とそれを活用した臨床を学びます。なお、卒業後の研修医期間には歯周科の選択がありますし、その後大学院に進学した際にも、細菌感染の抑制、生体の免疫応答や組織再生の制御によって、歯周や歯髄（歯の神経）組織を守ることを学びます。



顎口腔機能制御学



窪木 拓男 教授

岡山県立井原高等学校
昭和55年卒業

技術偏重の歯科補綴学から 分子生物学を駆使する Molecular Prosthodonticsの時代へ

当教室は、岡山大学歯学部で、歯科補綴学における歯冠補綴・架橋義歯学（クラウン・ブリッジ学）、インプラント義歯学の講義と実習を担当している教室です。

歯科補綴学は臨床歯学の一学科であり、歯、歯列、顎、口腔の硬組織・軟組織の欠損もしくは異常によって障害・喪失した機能と形態を各種義歯により回復するとともに、残存する諸組織の保全と健康の維持を目的とした学問です。この目的を達成するために、骨や軟骨、歯、象牙質の再生や顎関節症・口腔顔面慢性疼痛、高度インプラント治療、接着技法の歯科補綴臨床への応用、金属アレルギー、睡眠時無呼吸症候群などを研究・臨床対象としています。そして、これらの分野における臨床上的問題点を解決するために、分子生物学的手法

やナノテクノロジーなどを駆使し、精力的に研究を行っています。また、そこから得られた新知見を、研究のための研究でなく、トランスレーショナルリサーチに持ち込むことによって、失われた組織や機能の再創造を目指す研究・臨床を行っています。

興味がある方はホームページ (<http://www.dent.okayama-u.ac.jp/1hotetu/>) を御覧になって下さい。



咬合・口腔機能再建学



皆木 省吾 教授

岡山県立岡山操山高等学校
昭和 51 年卒業

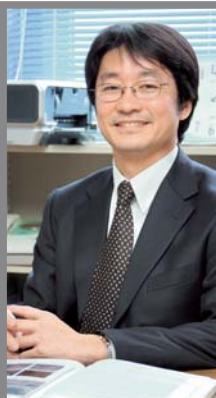
【楽しくおいしく食べる】をストラテジーに超高齢社会を迎え撃つ

私たちの教室は、岡山大学歯学部で有床義歯（総義歯、局部床義歯）の講義と実習を担当している咬合・口腔機能再建学分野です。歯学部の学生教育には総義歯（総入れ歯）と局部床義歯（部分入れ歯）を中心にインプラント、顎顔面補綴や顎関節症なども教えています。研究では、バイオエンジニアリング、口腔の軟組織や骨組織に関する生化学的研究、摂食・嚥下障害や構音障害の治療に関する研究、インプラント周囲組織についての研究、顎関節症やブラキシズムの研究、補綴治療を受けた患者のストレスの研究等その他多くの領域での研究を行っています。臨床ではこの様な研究成果を応用し、通常の入れ歯からインプラント、さらには摂食・嚥下障害、構音障害、顎顔面補綴治

療など多面的な治療を実践しています。【楽しくおいしく食べる】の実現を目指して教育、研究、臨床を行っています。ホームページ (http://www.dent.okayama-u.ac.jp/2hotetu/index_sc_j.html) を見て興味が湧いてきた方、質問ある方からのメールをお待ちしています。



顎顔面口腔矯正学



山城 隆 教授

大阪府立北野高等学校
昭和 59 年卒

審美、機能の両面からみた最新の矯正治療を学ぼう

審美、機能の改善を行い、患者さんへの心理的満足を得られること。そのために、皆さんには、講義、実習を通して、歯科矯正学を学んでいただきます。まず、成長・発育を理解し、さらに矯正歯科に必要な、臨床に関する基礎知識を学びます。臨床実習に入るとかみ合わせなどを気にされている患者さんに接しながら、講義、実習で学んだ内容をさらに深めていきます。診療室では顎顔面に症状の現れる先天疾患の患者さん、手術が必要な顎変形症の患者さんの矯正治療にチーム医療を取り入れています。そして、見た目の改善だけでなく、機能的な面もとらえながら治療しています。また、矯正用インプラントを用いた治療や骨延長術などの最新の治療、さらにおもてから見えない矯正装置などを

用い、治療中の見た目を気にされる患者様のニーズに応える治療も行っています。研究に関しては骨組織リモデリング機序の解明、痛みの制御、軟骨の再生、歯根膜細胞の機能に関する研究などを行っています。また、臨床的分野では患者さんの顎運動に関した研究をしています。臨床、研究ともに幅広く力を入れています。



歯顎口腔機能再建外科学



菅原 利夫 教授

福井県立藤島高等学校
昭和 36 年卒業

高度先進医療の開発を目指す口腔外科専門医の養成

当研究室は口腔機能を維持・回復することにより、全身の健康と QOL の向上に寄与することを目指す、口腔外科の専門的な臨床とそれらに関する研究および教育を行っています。

臨床面では教員の全員が（社）日本口腔外科学会認定の専門医であり、口腔腫瘍、口唇口蓋裂、顎変形症、顎関節症、外傷等の高度な外科治療や言語治療等のリハビリテーションを、また骨再生法を用いた歯科インプラント治療を行っています。

研究は臨床に密着したテーマとして 1) 骨の再生と吸収について①顎骨再生医療の臨床応用への細胞・担体複合移植手技の開発、②骨吸収機構の分子遺伝子学的解析とその臨床応用、③先天性骨疾患の遺伝子治療。2) 口唇口蓋裂発生機序の研究、

口唇口蓋裂・顎変形症患者の顎顔面形状計測と運動機能解析、発育・手術の評価法。3) 口腔癌および口腔疾患における抗菌抗腫瘍ペプチドの解析。4) 人工顎関節等の歯科インプラントの開発と臨床応用に関する研究を行っています。

教育面では、口腔外科学における学生教育、研修医および（社）日本口腔外科学会 専修医・専門医の臨床教育を行っています。



歯顎口腔病態外科学



佐々木 朗 教授

岡山県立
岡山大安寺高等学校
昭和 50 年卒業

Save your Life, Keep your Smile をめざした口腔外科医療

歯顎口腔病態外科学分野は口腔外科（病態系）という診療科を担当する臨床系分野です。

口腔外科では、抜歯、顎（あご）の骨折や変形、歯が原因で起こる炎症、口腔粘膜疾患、顎や粘膜にできる腫瘍、顎関節の病気、人工歯根の埋め込みなど口腔領域に発生する多くの病気の診断と治療を専門にしています。これらの治療は外来のみならず入院の上、全身麻酔下での手術も行っています。学生教育では口腔外科学のうち、口腔疾患の診断・検査、手術学総論・各論、口腔腫瘍学、口腔粘膜疾患、口腔領域の神経疾患や血液疾患、有病者の歯科治療、基本手技である抜歯学についての講義を担当しています。5年次生の後半から始まる臨床実習では、抜歯などの基本手技の修得、外科治療時の全身管理

などを指導教員についてもらい学んでいきます。また病棟回診や症例検討、手術室での手術見学もカリキュラムにはいっています。研究では、口腔癌の浸潤・転移や癌により誘発される骨破壊病変の研究、制癌剤耐性機構の研究、顎変形症の術前術後の評価に関する研究、骨・軟骨代謝に関する研究を中心に行っています。



顎口腔放射線学



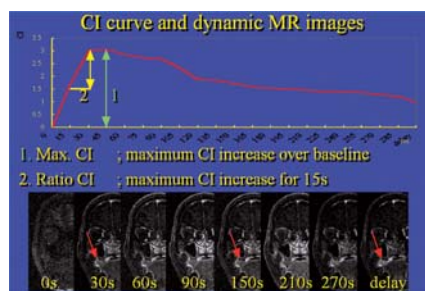
浅海 淳一 講師

愛媛県立今治高等学校
昭和 52 年卒業

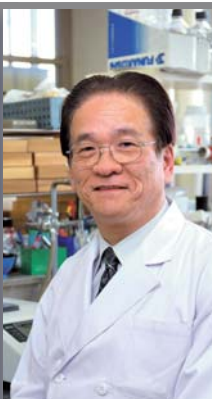
画像診断・口腔癌保存治療をテーマに歯科放射線学の分野を切り開く

当教室は、岡山大学歯学部で歯科放射線学の講義と実習を担当している顎口腔放射線学分野です。診療を行うためにはまず診断が必要です。診断の中で画像診断は非常に大きな比重を占めます。画像診断のモダリティの種類の豊富さと質の向上は目覚ましいものがあります。その診断機器について理解し、活用できるよう指導します。当教室は、画像による診断ばかりでなく、口腔診断の立場で総合的に診断を行うことを心がけて診療を行っています。また、口腔癌の小線源放射線治療（特にモールドを使用した非観血的な放射線治療）も行い口腔癌の保存的治療を目指しています。研究では、磁気共鳴画像を用いたダイナミック MRI によって、口腔病変の非観血的な質的診断能の向上を目指してい

ます。また、小型 MRI の開発も行っています。口腔癌の治療においては、審美性と機能性の保全が重要です。口腔癌における放射線治療、化学療法、温熱療法、免疫療法、遺伝子治療などによる保存治療の至適コンビネーションを構築し、審美および機能を温存した治療体系を構築しようと考えています。



口腔保健学



岸本 悦央 准教授

福岡県立福岡高等学校
昭和 43 年卒

役に立たない知識は意味がない 知識を知恵に転化し 応用する現場学

人間を取り巻く地球環境問題および室内環境にはじまり、保健統計学、歯科疾患の病因論や予防方法論などを講義します。

臨床では主にブラッシング指導をベースとした歯周疾患の治療に加え、虫歯の予防を含む口腔の健康保持増進を分担しています。これら以外に口臭、口腔乾燥、味覚異常などさまざまな障害が生じます。患者様と向き合いながら、治療、軽症化をはかり、疾患の再発防止、口腔の健康増進を図ります。よりよい医療を患者様に提供するために、医療統計学を基盤とした確率に基づく、勘だけに頼らないEvidence based dentistryをめざしています。しかし、最も大切

なのは患者様の目線にたって診療できる豊かな人間の資質です。

研究は常に現場を意識し、実験室では歯肉炎症とメカニカル刺激、全身疾患と歯周疾患、唾液成分などのミクロな研究、歯周疾患、口臭、口腔乾燥などの臨床疫学研究、また地域社会に出向いてのブラッシング指導などによる公衆衛生的介入研究も行っています。



行動小児歯科学



下野 勉 教授

兵庫県立兵庫高等学校
昭和 38 年卒業

白い健康な歯は小児歯科から
笑う、食べる、話すことは楽しい

小児歯科では子供の心身の発達、虫歯の発症の原因・虫歯の予防方法や正しい咬合への導入・年齢に応じた小児への歯科医の接し方や小児特有の歯科疾患を学びます。

小児歯科の臨床の最終目標は虫歯や他の口腔内疾患の予防と拡大の防止です。また、歯科医師と患児や保護者の間に強い信頼関係を築き快適で高度な歯科処置を施すことです。

その為に虫歯予防を細菌学的ならびに虫歯菌の感染経路の面から研究しています。またコミュニケーションのとり方や小児の行動ならびにどのような要素がポジティブに又はネガティブに行動の変容に関わるのかを科学的に研究しています。

歯科医師 1 年生は研修医として各指導医が班ご

とないしはマンツーマンで臨床を学びます。また小児歯科では行政で行われている 1 歳 6 ヶ月、3 才児健診などに参加して公衆衛生活動を学ぶ機会を設けています。また医学部の小児科、小児神経科や耳鼻科の要請を受けて訪問診療に出向いたり、口腔内を見て全身疾患が疑われる児は適切な科への紹介も行います。研修医が終わると指導医と共に実際に担当医として患児ならびに保護者の方と固い信頼関係を築きながら共に臨床医に携わっていきます。



歯科麻酔学



宮脇 卓也 准教授

兵庫県立小野高等学校
昭和 55 年卒業

“安全、安心、快適な歯科治療”
を科学しています

高齢化社会が進行し、歯科治療の患者様はどんどん高齢化しています。高齢化とともに、高血圧、心疾患、糖尿病などの複数の病気を持った患者様が増えてきました。また、治療技術は進歩しても、歯科治療は怖い、痛い、歯を削る音が嫌だ、など、歯科治療に対する不安や治療中のストレスは、なかなか解消されていません。歯科麻酔とは、このような患者様に安全、安心、快適を科学的に提供することを、教育、研究している専門分野です。教育では、呼吸・循環・代謝などの全身の生体反応を理解し、それを生かした全身管理、さらに手術、処置、および疾患に伴う侵襲による疼痛、ストレス反応を制御するための麻酔管理、歯科治療中に発生することがある全身偶発症の緊急時に、即座に対応で

きる救急救命処置を習得してもらい、ワンランクアップの歯科医師育成に努めています。研究では、生理学的、薬理的なアプローチに加え、リアルタイム PCR 法などの分子生物学的手法を用いた分析も取り入れ、大学院医歯薬学研究科の一分野として、大学院生の研究指導も行っています。



特注のテレビの付いた歯科診療台



新旧の文化が肩を並べる地、岡山

岡山県は全国的に有名な観光地が点在し、キャンパスのある岡山市の隣には芸術の町倉敷が位置しています。また少し足を伸ばせば、海と山、両方の自然に恵まれ、スキーやアウトドアを存分に楽しむことができます。「晴れの国」と呼ばれるほど気候も良く、人も街もたいへんおだやかな土地として知られています。



Campus Location within Okayama City

岡山大学歯学部のカンパスは、全国でも珍しく市街地の中心に位置しています。そのため交通の便が良くショッピングエリアなどが豊富でたいへん住みやすく、また歴史的資産や芸術にも触れられ学生生活に最適な環境が整っています。



交通案内

岡山まで JR 利用

- ・岡山駅東口から「12」・「22」・「52」系統の岡電バスで「大学病院前」下車。
- ・岡山駅前の路面電車乗場から「清輝橋」行に乗車、終点清輝橋下車、徒歩約8分。
- ・岡山駅前からタクシー 7～10分。

岡山まで航空機利用

- ・岡山空港から「岡山市内方面」行バスに乗車、「岡山駅」で下車、岡山駅からは左記交通機関で。

岡山まで山陽自動車道利用

- ・岡山ICで降り岡山市内方面へ、または、早島ICを降り岡山市内方面へ。



岡山大学歯学部案内

OKAYAMA UNIVERSITY DENTAL SCHOOL



岡山大学歯学部

〒700-8525 岡山市鹿田町 2-5-1

岡山大学歯学部教務学生係

TEL:086-235-6627

FAX:086-235-7635

URL:<http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/dent/>

岡山大学歯学部入試委員会、教務委員会編集



岡山大学